

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E31 教育制度論	阿 瀧 濱 健 一	単 独	2 単 位	こども学科 3 年 次	後 期	選 択	選択必修	選択必修		A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
①教育制度の意義・原理・構造について、法的・制度的仕組みの基礎的知識、及び教育制度上の諸課題を理解する。 ②学校と地域との連携の意義・協働について、事例を通して理解する。 ③学校事故・災害・事件の実情を知り、学校安全の目的、危機管理の具体的な取組を理解する	回	学 修 内 容	事前学修	事後学修	回	学 修 内 容	事前学修	事後学修		
	1	教育に関する制度的事項（国家と教育） 公教育の理念と発達、学校改革の現状、就学前教育の歴史的経緯について理解する	公教育、就学前教育の起りを調べる	公教育の発達と就学前教育の歴史についてまとめる	9	教育に関する制度的事項（教職員）教職員の資格、資質と信頼、身分、研修について理解する	教師の資格条件について調べる	教師の本質、身分、研修の義務についてまとめる		
	2	教育に関する制度的事項（教育の基本法規） 法律主義の原則、社会権の規定、教育の法制について理解する	主な教育法規とその体系を調べる	公教育は法律主義、社会権に基づくことをまとめる	10	教育に関する制度的事項（教育行政の理念と仕組み） 文科省、教育委員会、学校の関係について理解する	教育行政の仕組みについて調べる	教育行政の現状についてまとめる		
	3	教育に関する制度的事項（学校教育法と幼児教育） 幼児教育に関する法令について理解する	学校教育法が示す幼稚園教育を調べる	幼児教育に関する法規の内容をまとめる	11	教育に関する制度的事項（教育委員会） 教育委員会のしくみ・就学・職務権限、教育委員会と学校について理解する	教育委員会の仕組みについて調べる	教育委員会の仕組み、権限、就学についてまとめる		
	4	教育に関する制度的事項（学校の体制） 学校の種別、学校の目的・目標、学校の設置基準、教育要領について理解する	幼稚園や保育所の目的と保育内容について調べる	幼、保、認定こども園の目的・目標をまとめる	12	学校と地域との連携（開かれた学校） 地域との連携・協働による教育活動の意義と方法、開かれた教育課程の在り方を理解する	コミュニティースクールの現状について調べる	地域との連携・協働による教育活動をまとめる		
	5	教育に関する制度的事項（教育課程の編成） 教育課程の意義と原則、基準、編成、教育計画について理解する	義務教育制度の内容について調べる	義務教育制度の内容についてまとめる	13	学校安全への対応（学校での事故等の実情、学校安全の必要性） 学校事故等の実情、学校保健安全法の内容、学校安全の必要性を理解する	学校管理下での事故等の実情について調べる	学校保健安全法に基づく学校安全についてまとめる		
	6	教育に関する制度的事項（義務教育制度） 就学義務、無償制度、就学援助、国庫負担制度の概要について理解する	義務教育制度の内容について調べる	義務教育制度の内容についてまとめる	14	学校安全への対応（生活・交通・災害の安全教育、SNSの危険性、学校の危機管理） 学校管理下での安全指導・管理について理解する	学校管理下での安全教育内容について調べる	学校管理下での安全指導・管理についてまとめる		
	7	教育に関する制度的事項（教科書制度） 教科書の意義、使用義務、無償制について理解する	教科書、補助教材の選定と使用について調べる	教科書、補助教材の意義と使用についてまとめる	15	教育に関する制度的事項（教育制度上の諸課題） 社会変化と学校課題、生徒の生活変化と指導の在り方、教師の学びの精神について理解する	教育制度上の諸課題について調べる	教師の組織的対応・協働・学びの精神についてまとめる		
	8	教育に関する制度的事項（教育活動） 教育の中立性、教育課程の実施、幼児の管理について理解する	教育活動での基本的な理念を調べる	中立性や教育課程の管理と実施についてまとめる						
	授業の概要									
幼児教育職員を目指す学生に対して、 ①教育制度の概要と今日的な教育上の課題、教育関係法規について ②学校と地域との連携 ③学校安全への対応を概説する。 教育職員としての使命感や、基礎的な資質・能力を養う	5	教育に関する制度的事項（教育課程の編成） 教育課程の意義と原則、基準、編成、教育計画について理解する	義務教育制度の内容について調べる	義務教育制度の内容についてまとめる	13	学校安全への対応（学校での事故等の実情、学校安全の必要性） 学校事故等の実情、学校保健安全法の内容、学校安全の必要性を理解する	学校管理下での事故等の実情について調べる	学校保健安全法に基づく学校安全についてまとめる		
	6	教育に関する制度的事項（義務教育制度） 就学義務、無償制度、就学援助、国庫負担制度の概要について理解する	義務教育制度の内容について調べる	義務教育制度の内容についてまとめる	14	学校安全への対応（生活・交通・災害の安全教育、SNSの危険性、学校の危機管理） 学校管理下での安全指導・管理について理解する	学校管理下での安全教育内容について調べる	学校管理下での安全指導・管理についてまとめる		
	7	教育に関する制度的事項（教科書制度） 教科書の意義、使用義務、無償制について理解する	教科書、補助教材の選定と使用について調べる	教科書、補助教材の意義と使用についてまとめる	15	教育に関する制度的事項（教育制度上の諸課題） 社会変化と学校課題、生徒の生活変化と指導の在り方、教師の学びの精神について理解する	教育制度上の諸課題について調べる	教師の組織的対応・協働・学びの精神についてまとめる		
	8	教育に関する制度的事項（教育活動） 教育の中立性、教育課程の実施、幼児の管理について理解する	教育活動での基本的な理念を調べる	中立性や教育課程の管理と実施についてまとめる						
教科書・テキスト等	毎時プリント資料を配布する			成績 評価 基準	評価方法		割合（％）	評価のポイント		
					課題レポート		60%	課題レポートを2回提出		
					授業態度		20%	講義への取組み、意欲関心		
参考書・参考資料等					学修課題への対応		20%	事前・事後学修の実績		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
KC3E3E32 障害児保育	荒木 晴美	単独	2 単位	音楽学科 こども学 3 年次	前期	選択			必修	A B C D E F	
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
障がいに対する理念や障がいの種類や特性を理解している。 保育現場でできる配慮や環境の工夫ができることを目指す。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	障がいの基本的な捉え方を具体的な本を読み聞かせすることで学ぶ	障がいについてどのように思うか考えてくる	本を読んだからの感想をまとめる	9	記録と評価の方法を学ぶ	個別指導計画について調べておく	実際に計画書を作成してみる			
	2	WHOの国際生活機能分類にもとづいた障がいの理解	ノーマライゼーションについて調べておく	保育者としてきちんと障がいを理解する	10	どのような環境でどのような遊びを働きかけるかを学ぶ	保育所の一日の流れを調べておく	具体的にどのような遊具が理想か考えてみる			
	3	発達とは	0～6歳の発達過程を調べておく	言葉の発達を促すかわかり方をまとめる	11	ほかの子どもに関心を持ち始めたときどうすれば良いかを学ぶ	大人とのかかわりはどのようなものが調べておく	集団の中での課題を考えてみる			
	4	脳の発達と障がい	脳神経のネットワークについて調べておく	脳の働きと障がいについて整理しておく	12	保護者対応の留意点について学ぶ	障がい受容について調べておく	子どもの気になる行動を見つけたらどうするか考える			
授業の概要											
授業では障がいの捉え方や障がいに対する基本的知識を学ぶ。 発達上の課題に対して特別な保育ニーズと支援を明らかにする。 また障がい児保育が一般の保育にも生かせることを学ぶ。	5	障がい児の理解と保育における発達の援助	感覚統合について調べておく	障がいへの偏見をなくすには？	13	どのような連携があるか学ぶ	保育所児童保育要録を調べておく	小学校入学前にどのような連携があるか考える			
	6	視覚・聴覚障がい・言語障がい児の理解と援助 肢体不自由児の理解と援助	其々の原因疾患名を調べておく	支援のポイントを確認しておく	14	保健、医療、福祉、教育における現状と課題について学ぶ	特別支援教育について調べておく	課題の中で一番気になることは何かまとめておく			
	7	知的障がいの定義と分類、原因、特徴などを学び支援の方法を考える	発達検査や知能検査を調べておく	支援のポイントを確認しておく	15	「障がい児保育」の中で何を学んだか振り返る	障がいに対するイメージが変わったことを考えておく	保育者になったらどのように取り組んでいくか考える			
	8	発達障がい児の理解と援助	発達障害について調べておく	思春期になったの困り感を調べる	備考 ※音楽療法士養成課程1 種履修の場合は必修／こども学科の選択科目						
教科書・テキスト等	障がい児保育(中山書店)			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等					期末試験 課題／レポート 平常点	80% 10% 10%	学修内容理解 記述内容 態度・行動観察・毎時間の振り返り				

科 目 名	担 当 者		担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E07 社会的養護Ⅱ	荒木 晴美		単独	1 単位	こども学科 3 年次	後期	選択		必修		A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
社会的養護内容をふま施設だけでなく保育所で、また地域の住民の一人として児童福祉の担い手となることを目標とする	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	子どもの最善の利益について考え、権利を守る仕組みを考える	国際生活機能分類（ICF）についてしらべておく	児童自立支援計画書について復習しておく	9	児童自立支援施設・情緒障害児短期施設の特徴と現状を知る	2か所の国立児童自立支援施設を調べておく	運営形態の長所と短所をまとめておく			
	2	支援者としての資質と倫理について学ぶ	ノーマライゼーションについて調べておく	支援者としてのこども観を考える	10	知的障害児などの特徴と合併症を知る	知的障害の定義を調べておく	てんかん発作についておさえておく			
	3	児童養護の体系をきちんとおさえる	どのような児童福祉施設があるか調べておく	特に何を目的とした施設かを把握する	11	里親の定義と種類、里親認定の仕組みを知り、現状について知る	里親の種類について調べておく	里親養育の特徴を整理する			
	4	施設ごとの業務のポイントを学ぶ	保育士の業務を調べておく	他職種との連携やチームで行う療育を理解する	12	子どもと家族への支援のあり方	親権について調べておく	「子どもの最善の利益」をもう一度確認する			
授業の概要											
社会的養護が目指そうとしている方向性と施設における家族、子どもへの援助や支援のあり方を様々な事例を通して学ぶ	5	子どもの心理状態の理解をする。（特に虐待を受けてきた子ども）	虐待の種類を調べておく	子どもの問題行動の捉え方と対応を整理する	13	施設保育士の専門性	個別援助技術について調べておく	記録の作成をしてみる			
	6	児童養護施設の法的根拠とその現状	児童福祉法を調べておく	「子どもとの適切な距離」を覚える	14	どのような地域連携があり子育てしやすい地域づくりを目指すか	子どもに関係する福祉機関について調べておく	地域住民との交流の方法を考えてみる			
	7	乳児院での保育看護と愛着形成について	愛着形成を復習しておく	愛着形成の工夫とDVを受けた母親のケア	15	専門的な支援者としての役割	これまで学んだ重要ポイントをまとめておく	「福祉的視点」をもつことの重要性を知る			
	8	医療型障害児施設について	重症心身障害児について調べておく	レスパイトケアについて考える							
教科書・テキスト等	児童の福祉を支える“演習”社会的養護内容（第3版）（萌文書林）			成績評価基準	評価方法		割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等					グループレポート		50%	・課題に対する理解度とそれを伝える力 ・各々の意見を取り入れながらグループとしての解答を導き出す力			
					平常点（態度・行動）		30%	意欲的に取り組んでいるか			
					個人レポート		20%	上に同じ			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E33 教育方法論	松岡 和男	単独	2 単位	こども学科 3 年次	前期	選択	必修			A B C D F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
1. 幼児教育の基本、及び教育・保育実践の現状と課題を理解する。 2. 幼児の成長過程と学習教材の作成、保育環境の構成について理解する。 3. 保育内容の指導法と幼児期から学童期において重視すべき教育の方法について理解する。 4. 情報機器や視聴覚機器の活用法について理解する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション ＊幼児教育の現状と課題 【情報端末を利用し情報収集】	シラバスを読む とめる	授業での気づき をまとめる	9	幼児教育における評価 ＊グループで作成した指導案をもとに ＊模擬保育実践から評価方法を考える	どのような評価方法があるか考えて おく	実習につながる よう、学びをま とめる		
	2	幼児期の発達特性 【映像資料を参考に】	これまでに学んだ 幼児期の発達段階 について復習して おく	「映像資料」か らの気づきをま とめておく	10	幼児期の教育と小学校教育の関連① ＊接続、連携	テキストの該当箇 所を読んでおく	授業での学びを まとめる		
	3	幼児教育の基本① ＊環境を通して行う教育のあり方	保育内容「環境」 について復習して おく	「環境」につい て授業での学び をもとにする	11	幼児期の教育と小学校教育の関連② ＊言語活動、図書、教科指導 ＊パソコンソフトを利用した教材作成	自分自身の体験や 経験をまとめてお く	配付資料を整理 しておく		
	4	幼児教育の基本② ＊幼児の主体性の育成と「見えない 保育」 ＊保育者の意図と役割	「幼児の主体性 とは何か」につい て考えておく	授業での学びを 整理する	12	幼児期の教育と小学校教育の関連③ ＊体験的な活動 ＊問題解決的な学習	自分自身の体験や 経験をまとめてお く	授業での学びを まとめる		
授業の概要	5	幼児教育の基本③ ＊遊びを通した総合的な指導のあり方 ＊遊びの中の学び	幼児にとつての 「遊び」につい て考えておく	「遊びの中の学 び」についてま とめておく	13	現代社会の中での幼児教育① ＊家庭や地域と連携した幼児教育 ＊基本的な生活習慣の育ちを支援する	時事問題や事例を 調べておく	モデルとなる自 分自身の生活を 振り返る		
＊幼児期の保育の基本について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に則り、要点を論ずる。 ＊各保育内容別の指導・援助法の要点を具体的に論ずる。	6	方法としての様々な保育・教育形態① ＊事例から学ぶ特徴と実際 ＊事例をもとに部分指導案作成	テキストの該当箇 所を読み、事例の 概要をつかんでお く	部分指導案を完 成させる	14	現代社会の中での幼児教育② ＊園生活に困難を抱える子どもを 支援する	テキストの該当箇 所を読んでおく	テキストの配当 箇所と配布資料 を読み直し確認		
授業を進める中で、適宜、情報機器や視聴覚教材の選択方法や効果的な活用方法を例示する。	7	方法としての様々な保育・教育形態② ＊事例から学ぶ特徴と実際 ＊事例をもとに1日指導案作成	テキストの該当箇 所を読み、事例の 概要をつかんでお く	1日指導案を完 成させる	15	現代社会の中での幼児教育③ ＊幼児教育におけるカウンセリング マインドとパートナーシップ	カウンセリングに ついて復習してお く	事例や資料を参 考に学びを総ま とめる		
	8	知的・好奇心の育成と課題的活動	テキストの該当箇 所を読んでおく	テキストの該当 箇所と配付資料 を読み直し確認						
教科書・テキスト等	「保育指導法 幼児のための保育・教育の方法」(同文書院)			成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
					定期試験	50%	課題についての内容充実、自分の考え			
					毎時の振り返りワーク	40%	内容理解の深さと自分の考え			
参考書・参考資料等	平成29年度告示 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保 連携型認定こども園教育・保育要領」(チャイルド本社)				平常点	10%	積極性、出席時数は、4／5以上が必要			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E34 教育課程総論	亀井 裕子	単独	2 単位	こども学科 2 年次	前期		必修			A B
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
教育課程の意味について知り、幼稚園や保育所が教育課程・保育課程をもとに保育がなされていることを理解する。 教育課程に基づいて、指導計画を立てることがわかる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	教育課程の概念① 教育課程の意味について	シラバスを読む	教育課程について分かったことをまとめる	9	長期指導計画の作成① 指導計画の特徴及び作成の手順を知る	幼稚園教育要領を読む	学んだことをまとめる		
	2	教育課程の概念② 教育観の変遷について学ぶ	教育課程について調べる	分かったことをまとめる	10	長期指導計画の作成② 保育内容と 5 領域との関係について学ぶ	幼稚園教育要領を読む	学びのまとめをする		
	3	幼児期の特徴 発達の特徴と教育のあり方について考える	幼児期の発達について調べる	発達と教育の関連をまとめる	11	短期指導計画の作成① 環境構成と教師の援助について考える	幼稚園教育要領を読む	環境構成についてまとめる		
	4	幼稚園教育の基本① 環境を通して行う教育について学ぶ	領域「環境」を調べる	環境についてまとめる	12	短期指導計画の作成② 家庭及び地域社会との連携について考える	幼稚園教育要領を読む	分かったことをまとめる		
授業の概要										
幼児期の発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園教育の基本や教育課程の概要について知る。幼稚園教育要領をもとに教育課程編成の歴史及び保育所の保育課程や小学校教育課程とも関連させ、幼児教育における教育課程の本質の理解を図る。	5	幼稚園教育の基本② 遊びを通しての総合的な指導の意義について学ぶ	「遊び」の意義について調べる	総合的な指導についてまとめる	13	教育課程の評価 学校評価と指導要録について学ぶ カリキュラム評価のあり方を考える	評価について調べる	分かったことをまとめる		
	6	教育課程編成の基準 関連する法律等について学ぶ	幼稚園教育要領の目標を読む	関連法についてまとめる	14	実践上の諸問題 これからの保育のあり方について学ぶ	幼稚園教育要領を読む	学びのまとめをする		
	7	教育課程と指導計画① 長期・短期の指導計画について学ぶ 保育の質を高める教育課程のあり方について考える	指導計画の種類について調べる	関連法についてまとめる	15	教育課程について学んだことをまとめる。	これまでの資料に目を通しておく	学びのまとめをする		
	8	教育課程と指導計画② 教育課程編成の手順と実際について学ぶ	幼稚園教育要領を読む	分かったことをまとめる						
教科書・テキスト等	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本> (チャイルド社)			成績 評価 基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント		
	平常点 課題(レポート) 試験		30% 10% 60%		意欲 態度 テーマの理解 自分の考え 丁寧さ まとめ方 理解度 自分の考え					
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E35 保育の計画と評価	松岡 和男	単独	2 単位	こども学科 3 年次	前期	選択		必修		A B C D F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
1 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2 全体的な計画と指導計画の作成についてその意義と方法を理解する。 3 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	保育の計画と評価の意義（1）	シラバスを読む	評価の意義について分かったことをまとめる	9	指導計画（長期・短期）の作成の実際	指導計画作成上のポイントについて復習する	指導系計画（日案）を部分的に作成してみる		
	2	保育の計画と評価の意義（2）	各指針を準備しておく	評価の意義について分かったことをまとめる	10	指導計画の実際（1）	部分実習の計画案作成の配慮事項について予習する	部分実習指導計画案作成の留意点をまとめる		
	3	カリキュラムの基礎理論	テキストの該当場所を読む	保育、教育におけるカリキュラムについてまとめる	11	指導計画の実際（2）	テキストの該当箇所を読む	部分実習指導計画案作成の留意点をまとめる		
	4	幼稚園の教育課程・保育所の全体的な計画	遊びと子どもの発達について学習しておく	ワークを中心に復習しまとめる	12	指導計画の実際（3）	自分たちがたてた部分実習指導計画を振り返る	部分実習指導計画の学びのまとめをする		
授業の概要										
本講義は乳幼児期の保育を実践するうえで必要不可欠となる計画について基礎となる理論を学ぶものである。保育所だけでなく幼稚園・認定こども園も視野に入れた講義を展開する。	5	教育課程、全体的な計画等の編成	全体的な計画のための保育の理念について学習しておく	作成の基本について復習する	13	保育の記録とは	テキストの該当箇所を読む	実習を想定して保育日誌を書いてみる		
	6	教育課程、全体的な計画等の実際	テキストの該当場所を読む	教育課程編成におけるポイントについてまとめる	14	小学校につなげる要録	要録とは何か調べておく	小学校につなげる要録とは何かまとめる		
	7	教育・保育の指導計画の基本の考え	保育所保育指針等につて復習しておく	教育・保育の指導計画の基本をまとめる	15	教育・保育の評価と改善	テキストの該当箇所を読む	評価の必要性についてまとめる		
	8	指導計画（長期・短期）の作成	テキストの該当場所を読む	作成上のポイントについてまとめる						
教科書・テキスト等	保育の計画と評価 一豊富な例で1からわかる 萌文書林			成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
			定期試験 毎時の振り返りワーク 平常点		50% 40% 10%	課題についての内容充実、自分の考え 内容理解の深さと自分の考え 積極性、出席数は、4／5以上が必要				
参考書・参考資料等	平成29年度告示「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（チャイルド本社）」									

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E36 こどものあそび演習	沖田 秀子	単独	2 単位	こども学科 3 年次	後期	選択	必修	選択必修		A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
子どもがよりいっそう遊びを楽しみ、発展させ、満足感や充実感を味わえるようにするために必要な保育者の援助の仕方を実技を通して身につける	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション ＊エブロンシアター、絵本などの紹介と実践	シラバスを熟読する	講義、実践をまとめる	9	0・1・2 歳児の遊びの紹介と実践② ＊集団遊びの紹介と援助の仕方	教科書、未満児の遊びと実践を熟読する	理論をまとめる		
	2	折り紙の本を作る① ＊学修の進め方と折り紙の基本	折り紙集から材料の準備	作品を仕上げる	10	3・4・5 歳児の遊びの紹介と実践①	教科書、以上児の遊びと実践を熟読する	理論をまとめる		
	3	折り紙の本を作る② ＊季節の折り紙を考え、作成する	折り紙集から材料の準備	作品を仕上げる	11	3・4・5 歳児の遊びの紹介と実践②	教科書、以上児の遊びと実践を熟読する	理論をまとめる		
	4	折り紙の本を作る③ ＊自作の本を完成させる	折り紙集から材料の準備	作品を仕上げる	12	教育的環境、養護的環境の重要性	教科書、教育的環境/養護的環境を熟読する	理論をまとめ、理解を深める		
授業の概要										
遊びの五つの力“体、手、見る、聴く・話す、認知力、コミュニケーション”をいろいろな角度から考察し、学修する	5	軍手人形作り① ＊軍手人形と遊び方の紹介	作りたい作品の材料を準備	作品を仕上げる	13	人的環境の重要性	教科書、教師の役割を熟読する	自分の考えをまとめる		
	6	軍手人形作り② ＊実際に軍手人形を作り、遊び方を考える	作りたい作品の材料を準備	作品を仕上げる	14	遊びについて課題をグループで話し合いまとめる	各自、遊びを考える	自分の考えをまとめる		
	7	軍手人形作り③ ＊軍手人形を完成させ、互いの作品をもとに保育場面を想定した発表を行い、今後に生かす	作りたい作品の材料を準備	作品を仕上げる	15	グループ発表をする 全体のまとめをする	総復習	遊びの意義を知りまとめる		
	8	0・1・2 歳児の遊びの紹介と実践① ＊個々の活動の紹介と援助の仕方	教科書、未満児の遊びと実践を熟読する	理論をまとめる						
教科書・テキスト等	「子どもは動きながら学ぶ 環境による教育のポイント」（講談社）			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					平常点（態度・行動観察）課題/作品2点	80% 20%	積極的な取り組み、出席が全体の2/3を満たす			
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する				グループ討議・発表	20%	理解度			
					毎時間の振り返り（学習のまとめ）					

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3C37 教育相談	竹下 健太	単独	1 単位	こども学科 3 年次	後期	選択	必修		選択必修	A B D F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
児童福祉施設、保育の場での教育相談の役割と方法を学ぶ。必要な心構え（カウンセリングマインド）や技法を身につける。幼児、児童の発するシグナルに気づく力をつける。園内での自分の立場を活かし、発達段階や発達課題に応じた具体的な教育相談の計画を立てることが出来る。学内での組織的な取り組みや学外の専門機関とのネットワークが作れるようになる	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	教育相談の役割を理解し、教師に必要なカウンセリングとその理論、基本的な技法を習得する	教科書でカウンセリングマインドについて理解しておく	カウンセリング技法を使って会話を実践						
	2	幼児・児童の発達課題と発達上の問題及びその支援を学修	発達障害について調べてまとめる	幼児児童、保護者、教師、観察者を演じて練習						
	3	学校現場における「問題行動」とその対応について学修する。	「問題行動」を通して指導する方法を考察してくる	問題を抱えた子供の保護者の気持ちを想像し書き出す						
	4	障害を持った幼児、児童、保護者への対応を学修	教師役と保護者役に分かれて相談の練習をする	障害を持つ子の自己肯定感を高める支援について考察						
授業の概要										
最初に基礎的なカウンセリングの理論と技法を学修する。その後、将来必ず出会うであろう相談場面を想定し、その場面の様々な立場（教師、幼児、児童、保護者、観察者）を交互に演じながら技法の練習をする。また、そういった実践的な練習のなかで、教育相談で学ぶべき必要な心理学的、社会的知識を学修する。	5	問題が発生する前に働きかける予防的取組を学修する	何でも相談できる雰囲気はどう作るか考察	エンカウンターグループのエクササイズを試してみる						
	6	深刻化している教師のメンタルヘルスとその対応、教師同士の支え合いについて学修	「共感」に関する本を一冊以上読んでおく	授業での練習を踏まえお互いに話を聴きあう						
	7	保護者の子供に関する相談への対応及び保護者自身の抱えるストレスとその対応を学修	クレームをSOSと捉えることについて考察しておく	教師役と保護者役、観察者に分かれて相談練習						
	8	問題に全校あげて取り組むためのネットワークづくり及び利用可能な学外の専門機関について学修	利用可能な学外の専門機関について調べておく	学内外のネットワーク活用について話し合う						
教科書・テキスト等	よくわかる教育相談（ミネルヴァ書房）			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					小レポート・授業態度	80%	意見の深まり・積極的な参加			
参考書・参考資料等					期末レポート	20%	内容充実、論旨一貫性、自分の考え			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E38 幼児理解の理論と方法	亀井 裕子	単独	1 単位	こども学科 3年次	後期		必修			B F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
幼児理解は、幼児教育の基盤であり、適切な援助は正しい幼児理解のもとで行われる。幼児の実態に即して、発達や学びの過程における課題を把握するための原理や対応の方法について考えることができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	自分を育てるのに必要な「愛」 ～フロムの理論～	シラバスを読む	学修計画を立てる						
	2	他者とかかわるということ 関係性の中に生きる「わたし」	自分について考える	分かったことをまとめる						
	3	幼児を理解しようとする姿勢	幼児理解について調べる	幼児理解について分かったことをまとめる						
	4	発達のメカニズムについて	発達段階について調べをする	分かったことをまとめる						
授業の概要										
幼児理解に関する様々な視点からの理論研究を提示し、多様な見方を身に付けるとともに、実践における課題への対応の仕方を考え実践化を図る。	5	保育者の専門性としての理解と援助	幼稚園教育要領を読む	資料を復習する						
	6	個と集団の育ち 幼児の主体性を育てる援助方法	幼児の主体性について調べる	分かったことをまとめる						
	7	個と集団の育ち 幼児の主体性を育てる援助方法	幼児の主体性について調べる	分かったことをまとめる						
	8	幼児理解と評価の基本 ～評価の考え方 保護者理解と対応	幼児教育の評価について調べる	分かったことをまとめる						
教科書・テキスト等	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（チャイルド社）			成績評価基準	評価方法		割合（％）	評価のポイント		
			平常点 課題（レポート） 試験		30% 20% 50%	意欲 態度 テーマの理解 自分の考え 丁寧さ まとめ方 理解度 自分の考え				
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E39 子育て支援	亀井 裕子・竹下 健太	単独	1 単位	こども学科 4 年次	前期	選択		必修		A B C D F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
理論に裏づけされた演習を通じて、保護者等への具体的な保育相談支援方法を理解し、実践する基礎力を身に付ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション ＊保育相談支援のめざすもの	シラバスとテキストから大まかな学修内容をつかむ	学びを整理する						
	2	現代の子育てに関する問題と子育て支援 ＊日本の子育て ＊コペアレンティング	身近にある子育て支援の具体例を見つけておく	配付された資料を精読する						
	3	子どもの育ちと園での経験 ＊子どもの心身の発達と園での生活 ＊園における保育相談	子どもの成長・発達について復習しておく	実習先での経験を加えてまとめる						
	4	保育相談における連携 ＊専門家・多様な機関との連携 ＊地域全体での子育て支援	保育相談における専門機関について調べる	授業内容を振りかえり整理をする						
授業の概要										
保育士は、子どもや家庭、地域に寄り添い関わりながら、福祉に取り組む専門職である。それらの関わりの中で、相談支援が必要となってくる。そこで、この科目では、保育の専門性を生かした相談援助の知識や技術を学ぶ。	5	発達の気になる子どもとその家庭への支援 ＊相談支援の基本姿勢 ＊保護者の能力や資源を生かす支援	発達の気になる子どもについて復習しておく	配付された資料を精読し、整理する						
	6	養育の課題を抱える家庭への支援 ＊現代社会における現状と虐待未然防止の取り組み ＊施設における保育相談支援	テキストの該当箇所を読む	報道されたニュースの事例を探し、対応について考える						
	7	保育相談の具体的な流れ ＊保育相談支援のアセスメント ＊支援計画とカンファレンス	実習先での対応事例を振り返り、まとめる	学びを整理する						
	8	保育者の成長と研修のあり方 ＊メンタルヘルスの保持 ＊質の向上と保育者を支える支援と連携	これまでの資料を整理する	学びの総まとめをする						
教科書・テキスト等	新保育ライブラリ「保育相談支援」(北大路書房)			成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
					定期試験 毎時の振り返りワーク 平常点	50% 40% 10%	課題についての内容充実、自分の考え 内容理解の深さと自分の考え 積極性、出席時間は、4／5 以上が必要			
参考書・参考資料等	平成29年度告示 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(チャイルド本社)									

科 目 名	担 当 者		担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E40 こどもの体育Ⅰ	石岡　ひろみ		単独	1 単位	こども学科 3 年次	前期	選択	必修	必修		A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標		授　業　計　画									
子どもたちの発育・発達に応じた具体的な運動あそびの実践を通して、その意義や重要性を認識し、適切な補助・指導ができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	オリエンテーション 発達に応じたフットワークの実践と指導 リズム運動あそび／どうぶつ(2種)	シラバスの内容を 確認しておく	8 回の流れを確認する							
	2	歩・走・跳の運動あそび 全身を使った模倣運動あそび 発達に応じた集団ゲーム	年齢に応じたゲームあそびを考えておく	歩・走・跳の運動あそびの展開を考える							
	3	かけっこ大好き！ ～いろいろなりレーあそび 楽しく走力向上を目指す	健康の教科書で年齢による走り(写真)を確認する	いろいろなりレーあそびについてまとめる							
	4	いろいろな鬼ごっこ ～発達に応じたルール、援助 鬼ごっこ／ゲームあそび	経験した鬼ごっこの説明ができる	いろいろな鬼ごっこについてまとめる							
授業の概要											
子どもたちが運動あそびを通して、意欲、思考、がんばる力を育むことができるよう、指導法を学ぶと共に、保育者になる自身の習熟を図る。	5	ボールを用いた運動あそび ～発達に応じた実践と指導 ゲーム性のあるボールあそび	ボールあそびの種類を考える	ボールあそびの展開を考える							
	6	なわやフープを用いた運動あそび ～発達に応じた実践と指導 なわあそび、フープあそび	なわやフープを使ったあそびを考える	なわやフープを使ったあそびの展開を考える							
	7	リズム運動あそびの展開、指導（対面指導） ～リズムカルに体を動かす リズムの変化を感じて動く	対面指導(鏡の動き)ができるよう練習をする	対面指導を実践してみる							
	8	リズム運動あそび（対面指導） ～リズム運動の実際・対面での指導 まとめ	対面指導ができるようになる	これまでを振り返り学修したことをまとめる							
教科書・テキスト等	平成29年度告示／幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)			成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	適宜資料配付				期末試験（実技） 課題／発表／振り返り		50% 30%	保育者の視点をもった指導と内容 課題への取り組み方、発表の仕方			
					平常点（態度）		20%	保育者の視点をもった積極的な取り組み			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
KC3E3E41 こどもの体育Ⅱ	石岡　ひろみ	単独	1 単位	こども学科 3年次	後期	選択	必修	必修		A B C D E F	
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
運動あそびの意義や重要性を、実践例を基にさらに深め、子どもたちがのびのびと活動するために有効な言葉掛けや環境について学び、指導案作成や模擬保育ができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	手具を用いたリズム運動あそび～発達に応じた手具の用い方 楽しい音楽に合わせて踊ってみよう	シラバスの内容を 確認しておく	8回の流れを確認する							
	2	手具を用いたリズム運動あそび～グループ毎に、楽曲・対象年齢・手具を設定し楽しいリズム運動あそびを展開する	どのような手具があるか考えておく	年齢に応じた手具のあそびの展開を考える							
	3	マット運動あそび～転がりっこ／ころおいも／イス歩き／クマ歩き／カエル跳び／片足クマ歩き／前転起きあがり 他	マットでどのようなあそびができるか考える	いろいろなマット運動あそびについてまとめる							
	4	跳び箱運動あそび～箱を使った運動あそび／のぼる／跳びおりる／踏み越し／跳び越し／カエル乗り 他	幼児用跳び箱でどのような遊びができるか考える	いろいろな跳び箱運動あそびの工夫と展開を考える							
授業の概要											
子どもたちの発達に応じた運動あそびを実践しながら、保育現場に十分活かせるよう、指導のバリエーションを豊かにする。一人ひとりに合った言葉掛けや補助についても学び、保育構想の向上に取り組めるようになる。	5	平均台運動あそび～床上の細道さんぽ／くねくね道さんぽ／ジグザグ道さんぽ／床上の一本橋渡り／カニ歩き／補助一本指 他 フットワー	平均台を使った動きを考える	平均台運動あそびの工夫と展開を考える							
	6	模擬保育・運動あそび フットワーク／リズム運動あそび 乳幼児(0～2歳児)の運動あそび	乳幼児の運動について復習する(健康の教科書参照)	なわやフープを使ったあそびの展開を考える							
	7	模擬保育・運動あそび フットワーク／リズム運動あそび 幼児(3～5歳児)の運動あそび	幼児の運動について復習する(健康の教科書参照)	幼児の運動あそびの指導を考える							
	8	安全で、子どもも保育者も楽しい運動あそびの指導案作成、まとめ	安全で楽しい運動あそびの指導について書いてみる	これまでを振り返り学修したことをまとめる							
教科書・テキスト等	平成29年度告示／幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型 認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)			成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント			
					期末試験(実技)		50%	保育者の視点をもった指導と内容			
					課題／発表／振り返り		30%	課題への取り組み方、発表の仕方			
参考書・参考資料等	適宜資料配付				平常点(態度)		20%	保育者の視点をもった積極的な取り組み			

科 目 名	担 当 者		担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
造形表現	石岡 ひろみ		単独	2 単位	こども学科 4 年次	前期	選択	選択必修	選択必修		A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標		授 業 計 画									
造形表現をするプロセスの中で見えたり聞こえたりするものを受け止め、子どもたちが楽しみながら絵画や制作等に関わるために必要な知識や技術を習得する。そのうえで造形表現あそびの指導ができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	幼児の育ちと造形表現 感じることの豊かさについて 造形表現の実践	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる	9	〔木工〕特質、活用、指導法を知る。 木片／枝／板／竹／実、サンドペーパー／釘／金槌 他	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる			
	2	〔塗る〕描画材料の特質、活用、指導法を知る。絵の具／クレヨン・パス／マーカー・ペン／色鉛筆／鉛筆	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる	10	〔プラスチック他〕特質、活用、指導法を知る。 空き容器、トレイ、ペットボトル 他	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる			
	3	〔切る〕特質、活用、指導法を知る。 ハサミの正しい使い方と導入方法、段ボールカッター ＊動くペーパークラフト基本①	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる	11	〔ねんど造形〕特質、活用法を知る。 いろいろなねんどの種類と用法を知る。	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる			
	4	〔くっつける〕特質、活用、指導法を知る。でんぶんノリ／木工用ボンド／セロハンテープ／ホッチキス 他 ＊ペーパークラフト②	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる	12	造形表現の教材づくり (例)牛乳パックを使って～牛乳パック・材料との出会い／発達に応じた用具の選択	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる			
	5	〔ビニール他〕特質、活用、指導法を知る。 ビニール袋／カラーポリ／スズランテープ／ビニールテープ 他	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる	13	いろいろな素材の組み合わせ～子どもたちへ組み合わせさせて創る楽しさを伝える。 ＊テーマを決めて取り組む	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる			
	6	〔毛糸、モール、ボンボン、フェルト、ストロー、紙 他〕季節に合った造形表現 ～いろいろな素材を使って ＊吊るし飾り	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる	14	造形表現の広がりが～子どもの発達に応じた素材体験、創意工夫について考える。 制作からあそびへ繋ぐ保育実践指導案の作成	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる			
	7	〔アルミホイル他〕特質、活用、指導法を知る。キラキラ感覚の材料 他 ＊キラキラメダル作成	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる	15	幼児造形の魅力 ＊模擬保育 まとめ	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる			
	8	〔描く～見て、想像して〕イメージを膨らませて楽しく描く。 引き出すためのことば掛け	シラバスを精読し、必要な用具等の準備をする	本時の学びをまとめる							
授業の概要											
いろいろな造形表現の実践を通して、基礎的な理論や技術を学ぶ。子どもたちの心に寄り添い、発達に応じた造形表現の指導法を身につけ、保育構想の向上に取り組む。											
教科書・テキスト等		平成29年度告示/幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針（チャイルド本社）			成績 評価 基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント		
						期末試験（実技）	20%	保育者の視点をもった積極的な取り組み			
						課題／制作／振り返り	40%	課題・背景の取り組み、保育者の振り返り			
参考書・参考資料等		授業中、適宜資料配付				平常点（態度）	40%	保育者の視点をもった積極的な取り組み			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E43 保育実践演習	藤田 泉	単独	2 単位	こども学科 4 年次	後期	選択必修		必修		A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
1. 保育に関する専門的知識・技術、幅広い教養、総合的判断力、専門職としての倫理観等を修得できた自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等での体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、それへの対応として保育士、保育現場、地域、社会に求められることを多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1と2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育実践に必要な基礎的な資質能力を修得する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	本授業のガイダンスを行う	シラバスを読む	保育者に求められる役割について整理する。	9	3歳以上児の模擬設定保育を行う	第8回授業時に渡された課題を授業2日前までに提出	模擬保育の評価を提出する		
	2	自らの保育実践力を改善するための計画を立てる	第1回授業時に渡された課題を授業2日前までに提出	保育実践力を育むため本科目での自分の目標を整理	10	保育の質について考える（その1）	第9回授業時に渡された課題を授業2日前までに提出	話し合ったことをもとにミニレポートを提出		
	3	3歳未満児を含む長時間保育の場としての保育所・認定こども園で重視すべき原則について話し合い理解する	第2回授業時に渡された課題を授業2日前までに提出	法律と指針・要領の原則と実習体験を整理する	11	保育の質について考える（その2）	第10回授業時に渡された課題を授業2日前までに提出	話し合ったことをもとにミニレポートを提出		
	4	3歳未満児の環境構成・遊びへの関わり方・子どもも理解・環境再構成などについて、V T Rを材料に話し合う	第3回授業時に渡された課題を授業2日前までに提出	話し合ったことをもとにミニレポートを提出	12	保育の質について考える（その3）	第11回授業時に渡された課題を授業2日前までに提出	話し合ったことをもとにミニレポートを提出		
授業の概要										
1. 討論やロールプレイング等を通し次の観点から自分の学びを実習体験等と結びつけ振り返る。①保育士の意義や役割、職務内容、子どもへの責任、倫理。②社会性、対人関係能力。③子どもとその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携、④保育と子育て家庭への支援。2. グループでの研究発表や討論で現代保育の社会的課題につき問いを立て要因や背景、課題解決の方向性や内容・方法を検討する。3. 1と2から自己の課題を把握し今後の研修計画を立てる。	5	3歳未満児の設定保育の指導案を作る	第4回授業時に渡された課題を授業2日前までに提出	3歳未満児の設定保育の指導案を提出する	13	保育の質について考える（その4）	第12回授業時に渡された課題を授業2日前までに提出	話し合ったことをもとにミニレポートを提出		
	6	3歳未満児の模擬設定保育を行う	第5回授業時に渡された課題を授業2日前までに提出	模擬保育の評価を提出する	14	保育の質について考える（その5）	第13回授業時に渡された課題を授業2日前までに提出	話し合ったことをもとにミニレポートを提出		
	7	3歳以上児の環境構成・遊びへの関わり方・子どもも理解・環境再構成などについて、V T Rを材料に話し合う	第6回授業時に渡された課題を授業2日前までに提出	話し合ったことをもとにミニレポートを提出	15	質疑応答（最初30分）と期末筆記試験（残り60分）	全14回の授業で分からなかったことを2日までに提出	全回分の授業の復習を行う		
	8	3歳以上児の設定保育の指導案を作る	第7回授業時に渡された課題を授業2日前までに提出	3歳以上児の設定保育の指導案を提出する						
教科書・テキスト等	平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)、育ちの理解と指導計画【改訂版】(小学館)				成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		
						平常点（態度・行動観察）	20%	意欲・態度		
						課題・レポート	30%	テーマ理解度 自分の考え 丁寧さ 纏め方		
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する				試験	50%	理解度※受験条件：5分の4以上の出席			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E44 保育実習指導Ⅰ	亀井 裕子・石岡 ひろみ	複数	2 単位	こども学科 3 年次	前期			必修		BCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
保育実習の意義や目的を理解し、円滑な実習を行う。 ・保育実習の意義や目的を理解する。 ・実習に必要な知識や技能を身に付ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	保育実習の意義・目的 保育実習の意義や目的について考える	シラバスを読む	意義や目的をまとめる	9	指導計画① 部分保育における部分保育指導案を立案する	実習の手引きを読む	大事なことをまとめる		
	2	役割と機能 保育所及び児童福祉施設の役割と機能について学ぶ	保育所保育指針を読む	学びをまとめる	10	指導計画② 部分保育における指導案の立案と検討をする	実習の手引きを読む	学びのまとめをする		
	3	子ども理解 発達段階、子どもの人権と倫理について学ぶ	子どもの発達について調べる	発達段階についてまとめる	11	指導計画③ 責任実習における保育指導案を作成する	実習の手引きを読む	大事なことをまとめる		
	4	保育実習の流れ 保育実習の大まかな流れについて学ぶ	保育実習の流れについて手引きで調べる	手引きで確認する	12	指導計画④ 責任実習における保育指導案の立案と検討をする	保育指導案について調べる	学びのまとめをする		
授業の概要										
保育実習の意義、内容、方法等について理解するとともに、保育実習を円滑に進めていくための知識や技能の習得を図る。	5	具体的な方法 電話のかけ方、お願いの仕方などについて演習する	電話のかけ方について手引きを読んでおく	学んだことを復習する	13	実習準備 実習に必要なものをまとめる	保育所保育指針で確認する	分かったことをまとめる		
	6	実習日誌の書き方① 実習日誌の書き方（記入内容）について演習する	実習日誌の意義について調べる	学んだことを復習する	14	総括と自己評価 実習で何を学ぶかをまとめる	実習の手引きで確認し実習の目標を設定する	大事なことをまとめる		
	7	実習日誌の書き方② 実習日誌の書き方（表記と心構え）について演習する	実習日誌の書き方について目を通す	学んだことを復習する	15	まとめ 実習に向けて今後やっておくべきことをまとめる	実習の手引きで確認し実習の目標を設定する	大事なことをまとめる		
	8	実習終了後 実習終了後の手順について調べる	実習の手引きを読む	学んだことを復習する						
教科書・テキスト等	実習の手引き（平成音楽大学こども学科発行）			成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
					課題（レポート） 平常点		60% 40%	テーマの理解 自分の考え 丁寧さ まとめ方 意欲 態度		
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E47 保育実習ⅠA	亀井 裕子・石岡 ひろみ	複数	2 単位	こども学科 3 年次	前期			必修		A C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
これまで学修してきたことを保育現場で確かめる。 ・実習生としての確実な業務にあたる。 ・実習生としてわきまえた言動をする。	<事前学修> ・実習指導で学んだことを確認しておく。 ・保育指導案の準備をしておく。 ・読み聞かせ絵本、手遊び等の準備をしておく。 ・実習先とのオリエンテーションをする。 ・学内では、授業として開講されない。 ・保育所での 2 週間の実習で、観察・参加・保育という形態が中心となる。 ・実習期間中に実習巡回担当教員が実習先を訪問し、実習の実際を把握する。 ・実習に関する疑問などは、巡回指導日までにまとめておく。 〈実習中における学び〉 実習中は指導担当保育士の下で実習をし、「実習日誌」に下記の内容を主な視点として毎日記録し提出し、指導を受ける。 ・保育所の役割や機能についての理解とその意義について ・子どもの発達と理解について ・保育内容や保育環境に工夫について ・保育計画や観察、記録について ・専門職としての保育士の役割と職業倫理について <事後学修> ・実習日誌及び指導案等のまとめをし、自己課題を明確にし、実習担当指導者に提出する。 ・実習先へのお礼状を出す。									
授業の概要										
これまで学修してきた保育・教育領域の専門科目などをふまえて理論と実践の統合を図るとともに、体験を通して専門性を高める。 子どもの保育及び保護者支援、保育士の業務内容や職業倫理などについて総合的に学ぶ。										
教科書・テキスト等	実習の手引き（平成音楽大学こども学科発行）			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					実習先の評価 課題	90% 10%	実習評価観点に基づく 実習日誌 指導案			
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E48 保育実習ⅠB	石岡 ひろみ・松岡 和男	複数	2単位	こども学科 3年次	後期	選択		必修		A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
これまで学修してきたことを保育現場で確かめる。 ・実習生としての確実な業務にあたる。 ・実習生としてわきまえた言動をする。	<事前学修> ・実習指導で学んだことを確認しておく。 ・実習先に提出する文書（各種検査書類・保育指導案等）の準備をしておく。 ・読み聞かせ絵本、手遊び等の準備をしておく。 ・実習先でオリエンテーションを受ける。 ・事前に、実習巡回担当教員より打ち合わせ及び指導面談を受けておく。 ・学内では、授業として開講されない。 ・施設での2週間の実習は、見学・観察・参加・保育という形態が中心となる。 ・実習中は指導担当保育士の下で実習をし、「実習日誌」にその内容を毎日記録する。 ・実習期間中に実習巡回担当教員が実習先を訪問し、実習の実態を把握する。 ・実習に関する疑問などは、巡回指導日までにとめておく。 〈実習中における学び〉 実習中は指導担当保育士の下で実習をし、毎日記録し提出し、指導を受ける。 学びの視点 ・施設の役割や機能についての理解とその意義について ・子どもの発達と理解について ・施設における保育や保育環境の工夫について ・保育計画や観察、記録について ・専門職としての保育士の役割と職業倫理について ・他職種職員との連携について <事後学修> ・実習日誌及び指導案等のまとめをし、自己課題を明確にし、実習担当指導者に提出する。 ・実習先へのお礼状を出す。									
授業の概要										
これまで学修してきた保育・教育領域の専門科目などをふまえて理論と実践の統合を図るとともに、体験を通して専門性を高める。 子どもの保育及び保護者支援、保育士の業務内容や職業倫理などについて総合的に学ぶ。										
教科書・テキスト等	実習の手引き（平成音楽大学こども学科発行）	成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等			実習先の評価 課題		90% 10%	実習評価観点に基づく 実習日誌 指導案				

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E45 保育実習指導Ⅱ（保育所）	亀井 裕子・石岡 ひろみ	複数	1 単位	こども学科 3 年次	後期			選択必修		B C D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
保育実習の意義や目的を理解し、保育所に関する理解を深める。 ・実習に関する自分の課題を明らかにする。 ・実習に必要な知識や技能を身に付ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	課題を探る 前回の実習から自己課題を明らかにする	保育所保育指針を読む	課題を整理する						
	2	実習からの学び① 乳幼児理解、乳幼児へのかかわりについて考える	乳幼児の発達について調べる	発達段階についてまとめる						
	3	実習からの学び② 実習記録、指導案について振り返る	実習日誌、指導案を見直す	修正点をまとめる						
	4	保育実践力① 支援を要する子どもへのかかわりについて考える	実習の課題をまとめる	学びをまとめる						
授業の概要										
「保育実習 1」を振り返り、反省と今後の課題を探究していく。自己課題解決に向けて、具体的な学びを深めるとともに、技術の習得を図る。	5	保育実践力② 保育内容（制作、読み聞かせ、音楽的な活動）について考える	課題をまとめる	学んだことを復習する						
	6	計画、評価等 計画と実践、評価のあり方について見直す	評価の在り方について調べる	学んだことを復習する						
	7	計画、評価等 計画と実践、評価のあり方について見直す	実習の手引きを読む	学んだことを復習する						
	8	専門性 保育士の専門性と職業倫理について考える	保育所保育指針を読む	学んだことをまとめる						
教科書・テキスト等	実習の手引き（平成音楽大学こども学科発行）			成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等					課題（レポート） 平常点		60% 40%	テーマの理解 自分の考え 丁寧さ まとめ方 意欲 態度		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E46 保育実習指導Ⅲ（施設）	石岡 ひろみ・松岡 和男	複数	1単位	こども学科 3年次	後期	選択		必修		A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
多様な施設の理解を深め、保育士としての役割を理解する。 施設実習に関する自分の課題を明らかにする。 実習日誌が適切に書けるようにする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション ＊施設実習に向けて、事前準備 ＊実習生に求められるもの (DVD視聴)	実習の手引きを読む	保育所実習との共通点を確認する						
	2	施設の種類と概要 ＊対象者理解 ＊施設の一日の流れと実習内容 (DVD視聴)	各自の実習先の概要を調べる	各自の実習先について、学修をもとに再認識する						
	3	実習内容① ＊実習中の心得 ＊支援方法の配慮事項 (DVD視聴)	実習の手引きや資料を読む	自己課題をまとめる						
	4	実習内容② ＊実習日誌・記録方法 ＊指導計画について	これまでの実習を振り返り、実習日誌をまとめておく	学修を振り返り、整理する						
授業の概要										
児童福祉施設に従事するために、保育士は必要な資格の一つである。ここでは、児童福祉施設について理解を深め、施設実習の意義や目的をふまえ、職務にふさわしい目的・内容・方法を習得する。	5	実習課題の設定 ＊実習課題設定のポイント ＊実習課題設定のための準備	配付された資料を読んでおく	実習課題を具体的に設定する						
	6	基本的な生活の実践① ＊あいさつ ＊言葉遣い ＊いきいきとした表情・行動	基本的な生活習慣について自身を振り返る	よりよい挨拶、言葉遣いについてまとめ実践する						
	7	基本的な生活の実践② ＊マナー（食事など） ＊掃除 ＊洗濯	基本的な生活マナーや生活技術を確認する	マナーや生活技術を実践してみる						
	8	まとめ／ 施設実習に向けて 実習後の振り返りと今後のステップ	実習生として、保育者としての自覚を再度確認する	これまでの学修を振り返り、実習に備える						
教科書・テキスト等	実習の手引き（平成音楽大学こども学科発行）		成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				課題(レポート) 平常点		50% 50%	テーマの理解 自分の考え 丁寧さ まとめ方 意欲 態度			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E49 保育実習Ⅱ（保育所）	亀井 裕子・石岡 ひろみ	複数	2単位	こども学科 4年次	前期			必修		A C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
実習園の目標や規律に従い、実習を行い、保育所の役割について学びを深める。 ・実習生としての確実な業務にあたる。 ・現代社会の子育てにおける課題について正しく理解する。	<事前学修> ・実習指導で学んだことを確認しておく。 ・自己課題をもとに自己目標を明確にしておく。 ・実習先とのオリエンテーションをする。 ・学内では、授業として開講されない。 ・保育所での2週間の実習で、保育に積極的に参画することが主になる。 ・実習期間中に実習巡回担当教員が実習先を訪問し、実習の実態を把握する。 ・実習に関する疑問などは、巡回指導日までにまとめておく。 <実習の内容> ・園の教育方針や保育の概要について、管理職及び指導教諭の講話を聞く。 ・担当クラスで保育の観察や保育補助をしながら、子どもの発達や特徴等について学ぶ。 ・部分保育（設定保育）などの計画を立案し、指導教諭からの指導を受け、改善計画を立てる。 ・部分保育（設定保育）を実践し、指導教諭や他の教諭及び管理職等からの指導やアドバイスを受ける。 ・登園の受入れ、朝のあつまり、帰りのあつまり、給食、排泄、降園時の援助に取り組む。 ・環境構成、降園後の清掃等に取り組む。 ・実習記録を作成し、担当指導教諭と管理職の指導を仰ぐ。 <事後学修> ・実習日誌及び指導案等のまとめをし、自己課題を明確にし、実習担当指導者に提出する。 ・実習先へのお礼状を出す。									
授業の概要										
「保育実習ⅠA」での経験を生かし、通常保育はもとより、一時預かり事業、地域活動事業、乳幼児の保育に関する相談・助言の理解、地域における子育て支援の役割等を担う能力を養う。										
教科書・テキスト等	実習の手引き（平成音楽大学こども学科発行）		成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				実習先の評価 課題		90% 10%	実習評価観点に基づく 実習日誌 指導案			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E50 保育実習Ⅲ（施設）	石岡 ひろみ・松岡 和男	複数	2 単位	こども学科 4 年次	前期	選択		選択必修		A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
「保育実習ⅠⅡ」での経験を活かし、参加型実習や広い視野に立って子どもや利用者を見ることが、保育士としての課題を設定し、取り組むことを目標とする。	<事前学修> ・実習指導で学んだことを確認しておく。 ・実習先に提出する文書（各種検査書類・保育指導案等）の準備をしておく。 ・読み聞かせ絵本、手遊び等の準備をしておく。 ・実習先とのオリエンテーションをする。 ・事前に、実習巡回担当教員より打合せ及び指導面談を受けておく。 <実習について> ・学内では、授業として開講されない。 ・保育実習Ⅲは、原則として前期に2週間連続した実習を行う。 ・施設での2週間の実習は、見学・観察・参加・（保育）という形態が中心となる。 ・実習中は指導担当保育士の下で実習をし、「実習日誌」にその内容を毎日記録する。 ・実習期間中に実習巡回担当教員が実習先を訪問し、実習の実態を把握する。 ・実習に関する疑問などは、巡回指導日までにまとめておく。									
授業の概要										
保育実習Ⅲは、保育士資格取得のための選択必修科目である。 よって、保育実習Ⅱかこの保育実習Ⅲのいずれかを選択し、実習を行う必要がある。 これまで学修してきた専門科目などをふまえて理論と実践の統合を図るとともに、体験を通して専門性を高める。	<事後学修> ・実習日誌及び指導案や実習先からの配布資料等をまとめ、実習担当指導者に提出する。 ・実習先へのお礼状を出す。									
教科書・テキスト等	実習の手引き（平成音楽大学こども学科発行）	成績 評 価 基 準	評価方法		割合(%)		評価のポイント			
			実習先の評価		90%		実習評価観点に基づく			
			課題		10%		実習日誌 指導案			
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者		担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E51 保育・教職実践演習（幼稚園）	亀井 裕子		単独	2 単位	こども学科 4 年次	後期		必修			A B
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
幼児教育の今日的課題やその現状を捉え、対処する姿勢を身に付ける。 ・幼児教育における今日的課題について悩む。 ・課題を自分のものとして主体的に対処しようとする姿勢をもつ。 ・保育者としての資質を高める。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	オリエンテーション 本科目の意義や目的について知る	シラバスを読む	意義や目的をまとめる	9	社会人としての基本 社会の課題について考える	社会問題について調べる	大切なことをまとめる			
	2	事例研究 社会性・人間関係等についての課題をまとめる	人間関係の課題を調べる	学びをまとめる	10	幼稚園参観と講話 幼稚園の実態を確認し、園長講話を聴く	下調べをする	学びをまとめる			
	3	報告と演習 課題報告と情報交換をする	これまでの実習の課題をまとめる	学びを整理する	11	報告と討議 幼稚園参観について討議する	幼稚園参観の振り返り	学びをまとめる			
	4	ロールプレイング ロールプレイング演習と省察をする	幼稚園の課題について調べる	考えたことをまとめる	12	テーマに基づく演習① 子どもの安全について考える	幼稚園の実態を調べる	事例から分かったことをまとめる			
	5	指導計画立案 部分保育の指導案を作成する	実習の手引きを読む	指導案を仕上げる	13	テーマに基づく演習② 保護者支援について考える	保護者支援の実態を掴む	分かったことをまとめる			
	6	模擬保育① 保育実践とその検証をする	保育指導案を読んでおく	実践からの学びをまとめる	14	人権教育 幼稚園における人権教育について考える	幼稚園教育要領を読む	学びのまとめをする			
	7	保育指導案修正 検証をもとに指導案の改善をする	課題を明らかにしておく	実践からの学びをまとめる	15	まとめ これまでの学びのまとめをする	これまでの資料に目を通す	資料をまとめる			
	8	模擬保育② 修正案による実践と評価をする	修正案を確認する	評価をまとめる							
教科書・テキスト等	幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ＜原本＞（最新版）（チャイルド社）				成績 評 価 基 準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
						平常点	20%	意欲 態度			
						課題（レポート）	20%	テーマの理解 自分の考え 丁寧さ まとめ方			
参考書・参考資料等						試験	60%	理解度 自分の考え			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E52 幼稚園教育実習指導	亀井 裕子	単独	1 単位	こども学科 3 年次	後期		必修			B C D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
幼稚園教育の意義や目的を理解し、適切な実習ができるようにする。発達にそった指導案が立てられる。模擬保育を通して技能を高める。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	幼稚園実習の意義や目的について考える	シラバスを読む	意義や目的をまとめる						
	2	部分保育、責任保育の計画を立てる	保育計画の例を調べる	計画をまとめる						
	3	指導計画を立て、検討し合う	幼稚園教育要領を読む	修正した計画をまとめる						
	4	模擬保育をし、検討し合う	指導計画について確認する	検討内容をまとめる						
授業の概要										
幼稚園実習の意義・目的・内容・方法を理解するとともに、幼稚園実習を円滑に進めていくための知識や技能を習得する。	5	検討内容をもとに計画を修正し、実践する	指導計画について確認する	学んだことをまとめる						
	6	部分保育指導案を作成する	部分保育指導案の見直しを立てる	指導案の自己評価をする						
	7	指導案の修正と模擬保育をする	実習の手引きを読む	指導案の自己評価をする						
	8	幼稚園実習の心構えや留意事項について考える	これまでの資料に目を通す	学んだことをまとめる						
教科書・テキスト等	平成29年度告示／幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				平常点 課題(レポート)	50% 50%	意欲 態度 テーマの理解 自分の考え 丁寧さ まとめ方				

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E53 幼稚園実習 I	亀井 裕子	単独	2 単位	こども学科 3 年次	前期		必修			A C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
これまで学修してきたことを幼稚園の現場で確かめる。 ・実習生としての確実な業務にあたる。 ・正しい幼児理解、園の果たす役割がわかる。	<事前学修> ・実習指導で学んだことを確認しておく。 ・自己課題をもとに自己目標を明確にしておく。 ・実習先とのオリエンテーションをする。 ・学内では、授業として開講されない。 ・幼稚園での2週間の実習で、幼児の発達に即した援助のあり方、指導計画の作成及び実践、保護者とのコミュニケーション、幼稚園と地域社会との連携などについて学び、自己課題を明らかにする。 ・実習期間中に実習巡回担当教員が実習先を訪問し、実習の実態を把握する。 ・実習に関する疑問などは、巡回指導日までにとまとめておく。 <実習中における学び> 実習中は指導担当教諭の下で実習をし、「実習日誌」に下記の内容を主な視点として毎日記録し提出し、指導を受ける。 ・幼稚園の役割や機能の具体的展開について ・観察に基づいた保育の理解(子どもの姿、幼稚園教諭の援助や関わり、生活の流れ)について ・保護者(家庭)への支援と地域社会等との連携について ・指導計画の作成、実践、省察、評価について ・幼稚園教諭の業務と職業倫理について <事後学修> ・実習日誌及び指導案等のまとめをし、実習担当指導者に提出する。 ・実習先へのお礼状を出す。									
授業の概要										
幼児を観察したり、実際に幼児に関わったりすることを通して、幼児教育についての正しい理解を図る。その中で自己課題も明らかにしていく。										
教科書・テキスト等	実習の手引き(平成音楽大学こども学科発行)		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				課題 実習先の評価	10% 90%	実習日誌 指導案 実習評価観点に基づく				

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC3E3E54 幼稚園実習Ⅱ	亀井 裕子	単独	2 単位	こども学科 4 年次	前期		必修			A C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
実践を通して幼稚園教諭としての自己課題を明らかにする。 ・実習生としての確実な業務にあたる。 ・幼児理解を深めるとともに、自己課題を掘む。	<事前学修> ・実習指導で学んだことを確認しておく。 ・自己課題をもとに自己目標を明確にしておく。 ・実習先とのオリエンテーションをする。 ・学内では、授業として開講されない。 ・幼稚園での 2 週間の実習で、幼児の発達に即した援助のあり方、指導計画の作成及び実践、保護者とのコミュニケーション、幼稚園と地域社会との連携などについて学び、自己課題を明らかにする。 ・実習期間中に実習巡回担当教員が実習先を訪問し、実習の実態を把握する。 ・実習に関する疑問などは、巡回指導日までにまとめておく。 <実習について> ・園の教育方針や保育の概要について、管理職及び指導教諭の講話を聴く。 ・担当クラスで保育の観察や保育補助をしながら、子どもの発達や特徴について学ぶ。 ・部分保育（設定保育）などの計画を立案し、指導教諭からの指導を受け、改善計画を立てる。 ・部分保育（設定保育）を実践し、指導教諭や他の教諭及び管理職等からの指導やアドバイスを受ける。 ・登園の受入れ、朝のあつまり、帰りのあつまり、給食、排泄、降園時の援助に取り組む。 ・実習記録を作成し、担当指導教諭と管理職の指導を仰ぐ。 <事後学修> ・実習日誌及び指導案等のまとめをし、実習担当指導者に提出する。 ・実習先へのお礼状を出す。									
授業の概要										
「幼稚園実習Ⅰ」をふまえ、幼稚園及び幼稚園教諭の役割や幼児に対する理解を深めるとともに、実践を通して自己課題を明確にしていく。										
教科書・テキスト等	実習の手引き（平成音楽大学こども学科発行）	成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント				
			課題 実習先の評価		10% 90%	実習日誌 指導案 実習評価観点に基づく				
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
KC3E3E55 卒業研究（こども学科）	亀井 裕子・木村 博子 石岡 ひろみ・小松野 希海	複数	4 単位	こども学科 4 年次	前期～後期	必修				A B C D E F	
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
こども学科 4 年間で修得した保育領域、教育領域、音楽領域における知識、技能の集大成としての創作をする。 ・研究の目的やねらいを把握する。 ・計画的に実践する。 ・音楽的視点及び観点をもちて研究する。	【卒業ステージ】 <内容> ・これまでに修得した保育療育、教育領域、音楽領域においての知識、技能をもとに、音楽的視点や観点をもちて研究した子供向けの内容であること。 ・創意工夫しながらステージを組み立てる経験をすること。 ・一人ひとりの特技や特性を生かしながら、協力してステージを創り上げること。 <年間計画> ・資料収集及び内容検討 令和5年4月～5月 ・テーマ設定と概要決め 令和5年4月～5月 ・台本作成及び制作計画 令和5年5月～6月 ・練習及び制作 令和5年7月～11月 ・作品仕上げ 令和5年12月上旬 ・卒業ステージ公演 令和6年 1 月下旬 ＊発表内容等についての詳細は別途計画する ・卒業ステージ公演についての取り組みについてレポート作成 令和6 年 2 月 ・レポート提出										
授業の概要											
音楽的な視点や技能を基盤として、4 年間で学びを活かしながら、研究し創作したものをステージ発表する。											
教科書・テキスト等			成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント				
				平常点		40%	研究への取り組み（主体性・積極性・追求力）				
				ステージ発表		40%	意欲・態度・責任・表現				
参考書・参考資料等				レポート		20%	考え・まとめ方・丁寧さ				